

感動県政 あさのめ 新聞



埼玉県議会活動報告 2017.07 特集号 vol. 55

発行 埼玉県議会 民進党・無所属の会 さいたま市浦和区支部 〒330-0043 さいたま市浦和区大東1-11-1-501

ようやく埼玉県教育長決まる 驚愕の空白80日

教育長が決まるまで

3月27日 2月定例会最終日。上田知事、新教育長として小松弥生氏の起用を提案。自民「所信聴取など丁寧な対応を行うべき」と主張。公明も同調。文教委員会に付託され継続審議となる。

- 3月31日 4月1日から教育長が不在となるので、上田知事は藤崎育子氏を職務代理者として辞令交付。「知事から指名され、身の引き締まる思い。教育行政が滞ることがないように、取り組んでいく」とコメント。
- 4月4日 定例会見で上田知事「できるだけ速やかに文教委員会で意見聴取をしてもらいたい。年度当初なので(教育長の)出番の多い時期だ」
- 4月11日 定例会見で上田知事「本格的に行動計画や方針を決める時は職務代理者よりも教育長がいい。(議会側に)打診しているが返事がない」
- 4月14日 本年度初の教育委員会開催。空白になっている教育長に代わり、職務代理者が議事進行。教育長空席のまま開催される。藤崎氏「新教育長が来るまで頑張っ、教育行政に滞りがないように取り組む」
- 4月17日 自民団会議開催。人事案対応を文教委員会正副委員長へ一任が確認される。自民団長「それほど支障が出ていると思っていない」
- 4月20日 教育長不在20日となる。
- 4月21日 県議会3党派(民進・県民・共産)が、小林議長へ「県教育行政のトップが不在という異常事態を一刻も早く是正すべき」と、文教委員会の早期開催を申し入れる。
- 4月24日 文教委員会開催。伊藤委員長「各委員の意見を踏まえて日を改めて委員会を開催する」民進の木村委員「早急に開いてほしい」、県民の岡委員「空席解消を」と発言。
- 4月27日 教育委員会開催。職務代理者「(教育長が不在の)この状態には限界がある」と発言。本人が非常勤なので緊急時に対応が間に合わない可能性があることを問題視している。
- 4月28日 教育委員全5名連名で、小林議長へ教育長の早期就任を求める要見書を提出。職務代理者「もし大きな事件が起きた時、常勤の教育長がいないのは問題。早くお願いしたい」とコメント。
- 5月10日 教育長不在40日となる。
- 5月15日 自民団長「教育委員会開催の手続きを進めているのに、教育委員連名で要望書を出したのは議会に対する圧力だ」とコメント。
- 5月24日 文教委員会開催。「教育委員に自戒反省を求める決議」が、自民のみの賛成多数で可決。小松弥生氏所信表明。委員会同意される。
- 5月30日 教育長不在60日となる。
- 6月19日 本会議開催。教育長人事、小松弥生氏でようやく同意。80日間にわたる空席が解消される。

【教育長が不在になる】教育長は必置の役職で、常勤です。教育行政のコントロールタワーとも言われます。そもそもトップがない組織など考えられません。

埼玉県には、80日間その教育長が不在でした。他地方自治体でも類例をみない、異常な事態でした。「能力を見極める時間がない」との自民の主張で、本来決められる日である、3月27日に「継続審議」となり、「文教委員会へ付託」となりました。

しかし考えられないことに「能力を見極める」審議は長くなされません。教育長人事は棚ざらしにされてきたのです。

【お前たち黙っている】約2ヶ月後、ようやく文教委員会が開かれました。ところが、教育長の資質などを見極める審議に入ると思いき

や、委員会冒頭「埼玉県教育委員に自戒反省を求める決議」が提出されました。

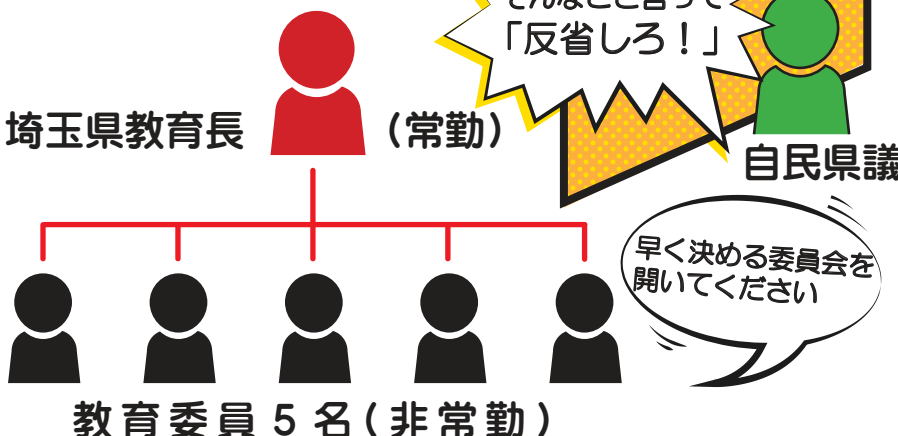
●教育長が不在なので、教育委員は「教育行政に支障が生じる、配慮を頂きたい」との文書を、小林哲也議長宛に出していたのでした。(下図参照)

●このことが自民の怒りに直結しました。「審査に影響を与えてる。自戒反省しろ」という内容でした。言わば「議会に圧力を加えた。お前たちは黙っている」と言わんばかりでした。

●関係者からは、「何たる完全認識錯誤」との声が上がりました。

【わずか1時間の審議】その後1時間余、所信などが問われ、教育長人事について委員全員の賛成が得られました。6月19日、本会議で同意され、ようやく教育長空白は解消されたのです。

80日間不在



解説

問われる 自民政治の無責任

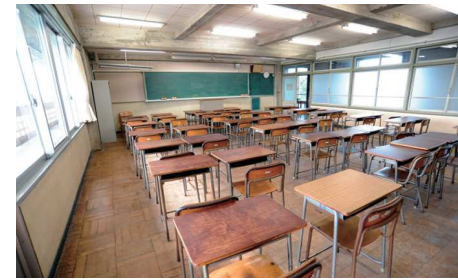
異常な事態

と内外で語られた

教育長不在

自民・公明が猛反対

●埼玉県議会では、2月定例会本会議で、新年度4月1日からの新しい埼玉県教育長に元文部科学省研究振興局長の小松弥生氏(58)を充てる人事案が上程された。
しかし、「新教育長の職責は非常に重い。今回の定例会では小松弥生氏の資質や能力が十分かどうかを審議する時間がなかった」と自民は主張。
本会議では、継続審査とすることが自民53名・公明9名などの賛成多数で3月27日、可決された。



●教育委員長と教育長を統合した新しいポストの教育長に、小松弥生氏が就任する見通しだったが、この採決結果

で当面は「埼玉県教育長は不在」という異常事態となった。
●2015年度に始まった改正地方教育行政法による新教育委員会制度見直しでは、教育長が従来の教育委員長の権限を併せ持つことになってい



■小松弥生(こまつ・やよい)氏略歴
京都大学法学部卒。1981年旧文部省入省。埼玉県教育委員会、仙台市教育委員会などに出向。高等教育局医学教育課長、文化庁文化部長、独立行政法人国立美術館理事などを経て文部科学省研究振興局長。6月19日から埼玉県教育長。任期は3年。

●小松弥生氏の人事案を今後は文教委員会に付託をし、審議は先延ばしされることが決められた。「定例会では審議する時間がなかった。丁寧な対応を行うべき」との自民の主張だった。しかし、いつまで経っても文教委員会で審議は一切行われていなかった。教育長人事は、たなざらしとなったのだ。

「意地悪」、「無責任」の声

●多数を背にした自民政治の無責任な暴走は目に余るばかりだ。上田知事へ対する不毛なバトルがいつまでも執拗に続いている。

●県立小児医療センターの工事を、2週間ストップさせる。「教育基本計画」を、継続審査とし、3か月の空白を生じさせる。大規模施設園芸モデル拠点整備事業(スマート・アグリ)の補助金を、10ヶ月支出停止させる。また、予算特別委員会では、4会派の猛抗議のなか要綱を変えて知事発言を封じ込めた。
●教育長は6月19日ようやく決まった。8ヶ月もの時間を要した。「意地悪」、「無責任」の声が県庁内外で上がる。
小松弥生教育長は、着任後精力的に仕事をこなしている。

あさのめ活動TOPICS

7月31日
「全盲の中学校教師を現場に戻せ」
私が10年前の県議会質問で訴え日本で初めて実現。皆野中学校で国語を教える新井先生と意見交換。「光を失っても心が見えた」と話される。盲導犬の名前は「リル」。

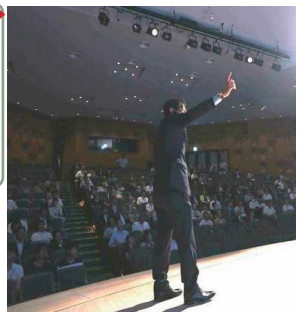


7月30日
厳しい暑さでしたが、駅頭からマイクを持ち、チラシを配り、県政報告をさせて頂きました。(浦和駅東口)



7月25日
3回の県議選のうち2回、選挙事務所を“常盤”に置かせて頂きました。今年も常盤のはつぴの袖を通し、町内渡御の御神輿を担がせて頂きました。皆さんと一緒に、掛け声をあげ邪氣を払いました。

6月2日
「第13回あさのめ県政報告会」(埼玉会館)。埼玉県議会の現状と未来を話しをさせて頂きました。200名の皆さんと課題について考えました。



浅野目義英(あさのめ・よしひで)プロフィール

昭和33年5月27日東京生。山形県米沢市育ち。法政大学社会学部卒。小学校教員を経る。隣接の上尾市で全国最年少の25歳で市議初当選。市議4期(25~41歳)。37歳で全国最年少議長。上尾市長選挙次点敗退。予備校講師、鮎井屋でひたすらマグロを切る仕事、武正公一代議士政策秘書など、政治浪人7年余を経て、平成19年埼玉県議会議員トップで初当選。平成27年埼玉県議会議員トップで3期目当選。平成28年4月、埼玉県議会 民進党・無所属の会 代表に就任する。

